

やまもも

【教育目標】 笑顔いっぱい高井小 笑顔を創る高井っ子（スマイルクリエイター）の育成

○5年宿泊学習

5年生が5月28、29日（木、金）に土浦市にある県立中央青年の家にて宿泊学習を行いました。絵ろうそくづくり、やまビンゴ、キャンドルサービス、野外炊飯などにグループの仲間と協力して取り組みました。

学校や家庭を離れた場所で、集団生活を行うことで、規則正しい生活態度を身に付けるとともに、自主的・自発的な態度を育むことができました。また、自然の多い場所での活動を楽しむことができ、笑顔いっぱいの姿を見ることができました。

2日間で体験してきたことを、これからの学校生活や学習場面に生かしていきます。

当日までの準備など、ご協力ありがとうございました。



○6年修学旅行

6年生が6月11、12日（木、金）に修学旅行を実施しました。

鎌倉市内班別行動、ホテル三日月での宿泊、海ほたる散策、横浜港クルーズ、カップヌードルミュージアムでのマイカップづくり、横浜中華街での昼食などを体験しました。どの活動もグループの仲間と協力して取り組みました。

鎌倉の自然や名所旧跡の見学、横浜港や博物館の見学を通して、自然に親しむとともに、日本の歴史や現在の姿に関心をもつことができました。また、学級の友達と寝食を共にすることを通して、新たな発見をしたり、友達との結びつきを深めたりすることができました。

2日間で体験してきたことを、これからの学校生活や学習場面に生かしていきます。

当日までの準備など、ご協力ありがとうございました。





子どもの個性を支える「メガネ」の工夫

一人ひとりの「得意」と「苦手」に寄り添う特別支援教育

子どもたちには、それぞれの「得意」と「苦手」があります。学校では、一人ひとりの困りごとを減らし、安心して学べる学校づくりに努めています。

～イメージは、視力に合わせる「メガネ」と同じです～

目が見えづらい子に「もっと目を凝らしなさい！」とは叱らないはずです。その子の視力に合った「メガネ」を用意するはずです。学校生活や学習において感じる「苦手さ」も同じです。本人の努力不足によるものではなく、「**その子に合った工夫や道具**（＝メガネ）」が必要になります。



視覚サポートのメガネ

耳で聞くだけでは忘れがちな子も、**黒板にスケジュール**を書いておくことで、いつでも目で見て確認し、安心して次へ行動できます。



役割サポートのメガネ

じっと座り続けることが苦手な子には、**プリント配りなどの役割**を積極的にお願いし、自然に体を動かせる工夫を取り入れています。

～クラス全員にとってのメリット～

「特定の子だけに配慮するのはずるい？」と感じられるかもしれません。しかし、特別支援教育の視点を取り入れた工夫は、クラス全員にとって過ごしやすい環境づくりにつながっています。



みんなが「分かりやすい」「安心できる」環境へ

黒板の周りをすっきりさせ、一日の流れをイラストで掲示する工夫は、集中が苦手な子のためのものですが、クラスの他のお子さんにとっても「**見通しが持てて安心する**」「**授業に集中できる**」という大きなメリットになっています。

誰かの苦手をみんなでカバーし、誰かの得意をみんなで喜び合える温かい学校を、保護者の皆様と一緒につくっていきたいと考えています。お子さんのことで少しでも気になることがあれば、いつでもお気軽に学校までご相談ください。

○第1回 学校運営協議会を開催しました

6月1日（月）に第1回学校運営協議会を開催しました。

取手市教育委員会から任命を受け、組織づくりを行い、グランドデザインに基づく学校経営方針について承認をいただきました。これから、委員の皆様とともに地域一体の学校づくりを進めて参ります。

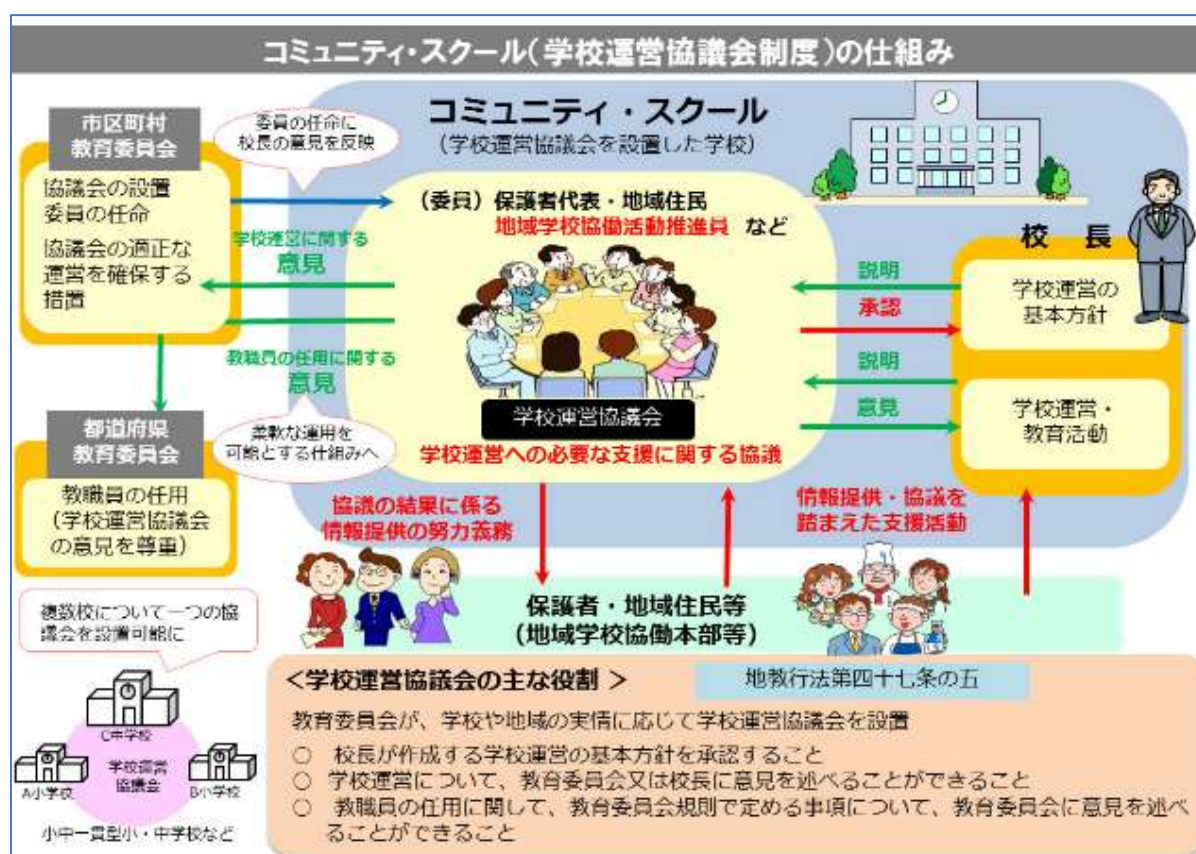
今後は、保護者や地域住民の参画による「地域学校協働活動」に向けて、ボランティアの募集もスタートします。皆様のご協力をお願いいたします。

学校運営協議会委員（12名）

＜地域の方＞ 5名

＜保護者＞ 3名

＜学校関係者＞ 4名



コミュニティスクールの仕組み(茨城県教育委員会 HP より)